資料１

第２回西北地区統合校開設準備委員会における主な意見

１　校名案検討の方向性について

【各委員からの意見】

① 各委員からの校名案候補の提案について

○　「五所川原工科高校」と「五所川原工学院高校」の２案を提案したが、他の委員は１案のみ提案していることから、自分の案は「五所川原工科高校」としたい。

② 意見募集の進め方について

○　これまで五所川原市でもパブリック・コメントを実施しているものの、意外と提出される意見は少ない。このことも考慮し、現在、各統合対象校に在籍している生徒の保護者等の意見を大事にするなどの配慮をしてはどうか。

③ 校名案候補の絞り込み方法について

○　事務局が示した例では、位置、専門学科、理念が着眼点となっている。しかし、専門学科に対して普通科という着眼点も出てくる。また、既存の校名という着眼点もない。このことから、着眼点を、位置、学科構成、理念、既存の校名とし、４つのグループに分類することを提案したい。

○　五所川原工業高校に関わってきた方々の同校に対する思いや歴史がある一方で、金木高校、鶴田高校、板柳高校に関わってきた方々は新しい気持ちで統合を迎えたいとの思いがある。先ほど委員から提案があった、位置、学科構成、理念、既存の校名によるグループ分けでは、「五所川原工業高校」という校名案候補が特別な扱いになってしまう。様々な意見はあると思うが、個人的には事務局が示した例が絞り込みやすいと考える。

○　校名案候補の絞り込み方法を白紙の状態で考えてみた際、何らかの観点に着目して絞り込みを進めることになるだろうと想定していた。個人的には事務局の例示にある３つのグループが理にかなっているように思う。

（意見等記入票における意見）

○　１０案の校名が提案されたが、統合校の教育活動方針などを考慮しながら、並行して決定するのが望ましいと思う。統合校の校名が「五所川原工業高校」だと、金木高校、板柳高校及び鶴田高校が吸収されたというイメージは否定できない。

○　統合校は、旧市町で言うと４つの市町が関係しているので、所在地は五所川原市になるが、冠に「五所川原」を付けるのは望ましくない。また、「五所川原工業高校」への吸収合併ではないので、新たな校名にすべきである。これは、全国の統合事例でも大方そのようになっている。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

■　**校名案候補を絞り込む方法については、各委員から提案された校名案候補を事務局案のとおり「位置に着目」「専門学科に着目」「理念に着目」のグループに分け、協議等によりグループごとに絞り込みを行うこととした。**

２　特色ある教育活動の方向性について

【各委員からの意見】

①　引き継ぐべき特色ある教育活動

○　金木高校では、総合的な探究の時間において、地元ＮＰＯ法人かなぎ元気倶楽部等と連携し「郷土を知り、深め、広める活動」を行っており、統合校に取り入れることも考えられる。

　また、地域に貢献するボランティア活動を通して、地域を知り、起業する力を身に付けさせたいと考え取り組んでいる。このような活動を引き継げると良い。

○　板柳高校では、小・中学校との交流活動を行っており、小学生のキャリア教育や異校種の交流をしている。新設校として統合校が開校することとなるが、小・中学生に対するＰＲという面からも、このような活動を引き継げると良い。

○　鶴田高校では、ＡＬＴや国際交流員と行う１泊２日英語合宿や、英語のスピーチ等を実施するＥｎｇｌｉｓｈ　ｄａｙの取組を行っており、統合校に引き継いでもらいたい。

　米国フットリバー市と鶴田町との交流で培われてきた信頼関係に基づく協力を得て、海外研修旅行において毎年ホームステイを実施できており、これまで築いた関係性は引き継いでも良い財産である。

　鶴高の恩返しプロジェクトのように、各地域における名所や特産品をアピールできるような活動を統合校でも取り組んでいけると良い。

○　五所川原工業高校における工業教育は、統合校に設置される機械科、電子機械科、電気科において、引き続き取り組んでいく。また、各学科共通の資格等については、普通科生徒による取得も視野に入れられると考えている。

　本校と協定を交わしている東北職業能力開発大学校青森校との連携を深めていくことが生徒のキャリア形成のプラスになると考えている。

　異校種交流学習、体験入学、学校公開、地域イベントやボランティア活動への参加は、統合校に引き継いでいければ良い。

○　各校では地元の祭りに参加している。このような地域への貢献についても考慮してもらえると良い。

②　新たな特色ある教育活動

○　生徒のキャリア形成の視点で東北職業能力開発大学校青森校との連携を継続していくべきであり、このことは普通科生徒にとってもメリットになる。また、統合校における工業科と普通科という学科構成を踏まえると、統合後は工業以外の医薬理工系大学との連携も視野に入れるなど、高大連携の可能性が広がると考えられる。

（意見等記入票における意見）

○　この地域において人口減少問題は地域衰退に直結する大問題である。高校卒業後、地域に根ざし貢献できる人財を育てられるような教育が必要だと考える。金木高校、板柳高校及び鶴田高校では歴史ある教育活動を行っているので、是非活用して地域を盛り上げていただきたい。

○　各校と所在地である市町村との協力・協働により成立している教育活動もあり、どのように受け継いでいくのか難しい面もある。

○　第１期実施計画を基に４校での特色ある教育活動を引き継ぐべきである。来年度、設置される開設準備室でいろいろ協議してもらってはどうか。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

■　４校がこれまで行ってきた特色ある教育活動を引き継ぎながら、より充実した教育活動を展開できるよう、当委員会における意見を総合的に勘案しながら、来年度、五所川原工業高校に設置する開設準備室で検討を進めてもらいたい。

３　普通科と工業科の連携の方向性について

【各委員からの意見】

○　普通科、工業科に関わらず居住地域によりグループ分けをし、自身の居住地域について理解を深め発信するような取組を１年次の総合的な探究の時間に行ってはどうか。

○　資格取得や進学講習等における連携が考えられる。

○　総合的な探究の時間もしくは文化祭等の学校行事の際、例えば、工業科の生徒がアクセサリーを製作し、それを普通科の生徒がパッケージデザインや販売等のマーケティングを行ったり、インターネットを通して情報発信したりするような連携ができないか。

○　統合校では、普通科の生徒が商業に関する資格取得を目指すだけでなく、工業科の科目も選択できるような教育課程を編成してはどうか。

○　各地域の活動に普通科と工業科の生徒が手を取り合って取り組むことで、普通科の生徒だけではできない工業科の生徒によるものづくり等を含めた地域貢献が可能になるのではないか。

○　普通科における探究型学習への取組であるが、工業科の課題研究をベースにしつつ、伝統文化の継承、国際交流、地域課題の解決等をテーマにした探究型学習のプログラムを開発する必要がある。

○　これからの時代を生き抜いていける人財を育むということを念頭に、文理類型にこだわらない科目履修ができるカリキュラムの編成は理想的である。

○　工業科と普通科の連携によるメリットを最大限に生かした教育活動については、単に科学技術やＩＴ技術に長けた人財を育てるという視点でなく、しっかりとした学力を身に付けさせ、広く深い思考ができる人財を育成するという視点が重要である。

（意見等記入票における意見）

○　普通科においても、資格取得に向けた取組を取り入れてはどうか。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

■　当委員会からの意見を踏まえ、統合校において普通科と工業科の連携した取組が活発に行われるよう、開設準備室において具体的な検討を進めてもらいたい。

４　部活動の方向性について

【各委員からの意見】

○　五所川原工業高校に設置されている部活動が基本となることは理解できる。ただし、普通科が設置されることで、現在の五所川原工業高校よりも女子生徒が増えることが予想されるため、女子生徒の活動の場を是非検討していただきたい。

○　現在、金木高校の三味線部員は少ないが、統合校において生徒のニーズがあれば三味線部の設置も検討いただけると幸いである。

○　統合校が開校する令和３年度と令和４年度の２年間は、五所川原工業高校の生徒と統合校の生徒が１つの校舎に共存することを踏まえながら、部活動の在り方等を検討していく必要があり、検討課題として開設準備室に引き継いでいくことになる。

（意見等記入票における意見）

○　部活動については、生徒の関心が高い部分である。したがって統合の対象となる４校の生徒からアンケートを取るのも１つの方法ではないか。また、指導者の確保も十分検討する必要があるのでないか。

○　各校の運動部や文化部には多くの歴史や実績があると思う。統合後も残せる部活は継続し、生徒たちの活躍の場を広めていければ良いのではないか。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

■　部活動については部活動の設置数が多い五所川原工業高校を基本としつつも、女子生徒の活動の場の確保や生徒のニーズも踏まえながら、統合対象校で行われてきた特色ある部活動を生かしていくという観点で、開設準備室において検討を進めてもらいたい。

５　統合対象校間の連携の方向性について

【各委員からの意見】

○　今後、在籍生徒が更に減少していくため、統合対象校間における合同チームの編成等の連携が必要になってくる。部活動における合同チームの編成は早急に対処すべき課題である。

○　各統合対象校間で生徒が交流し互いの学校を理解したり、自身の学校を紹介したりする場があっても良い。ただし、各校は自校の教育活動で忙しいこと、また、金木高校、板柳高校、鶴田高校は在籍生徒が減少していくことを踏まえ、無理のない範囲で活動できると良い。具体的には、統合対象校の文化祭を各校の生徒が見学し、互いの学校を紹介し理解するような活動ができると良いのではないか。

○　統合対象校が閉校となるまでの期間は限られているものの、今後、統合校の開校という観点だけではなく、統合対象校の閉校もイメージしながら、協議していく必要がある。

○　必要に応じて、教育課程の検討等について、その都度ワーキンググループを立ち上げるなどして詳細に検討していかなければならない。

（意見等記入票における意見）

○　統合する４校には、各校色々な引き継ぎたい特色があるので、可能な限り継続していければ良い。開設準備委員会以外に、４校のみでの会議なども必要なのではないか。

○　生徒・教員の移動について、時間の確保と予算的な支援も求められる。

○　県内における今までの連携事例を参考にしてはどうか。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

■　統合前であっても４校の生徒が文化祭等を通して交流したり、教育課程編成に向けた課題の整理等の統合準備が円滑に進むよう、必要に応じて４校の教員によるワーキンググループを設置したりするなど、連携を深めてもらいたい。